

3 - 5 使えるサポートツールを知りたい



既存の支援制度をうまく活用する

- ・ ニーズがあり需要は見込めそうだが、立ち上げに財政上の壁が存在する場合、支援制度の活用も有効である。支援制度を活用した社会実験等を行うことで最適な経営戦略の立案も可能となる。

知恵袋 (その 27)

取組みの立ち上げは社会実験、本格運行は長期的視点に立った経営戦略

(沖縄県那覇市)

- ・ 国の支援制度^{注)}の活用した社会実験を足がかりに、関係者相互の協力もあり、公共交通の空白地区に新たなバス路線の運行を開始。
- ・ 社会実験の経過を鑑み、地域のポテンシャル、観光客の需要が見込まれるとし、本格運用を決断。当面の赤字よりも長期的な経営戦略を重視し、ルート of 延長と運賃改正を計画的に実施している。現在は補助無しで運行を行っている。

注)バス利用促進等総合対策事業の補助制度

社会実験以前から地域の潜在的需要を認識

- ・ 対象路線沿線は公共交通の空白地区であり、地元からもバス路線の設置要望が出されていた。
- ・ 観光名所(首里城)を経由することから、年間通じて観光客の需要も見込めると判断された。(利用客数のうち、地元の利用者は2 / 3、観光客は1 / 3と想定)
- ・ このようなことから、社会実験後は、平日元々バス路線のなかった石嶺団地周辺住民の通勤・通学・買物等の移動手段として有効に利用されている。また、休日は観光客の首里城へのアクセスやホテルとの行き来に利用されている。

長期的な経営戦略により運賃、路線を設定

- ・ 社会実験時に設定した運賃(100円)では、本格運行後採算が確保できない(赤字)ことは当初より把握していた。
- ・ しかし、那覇市の人口ポテンシャル、今後の高齢化による自家用車離れ、季節変動の少ない観光客数の確保を見据え、将来的に採算の取れる路線であると交通事業者が判断し、当面の赤字は覚悟の上で本格運行がスタートした。
- ・ 本格運行にあたっては、長期的な視点で、段階的な運賃の設定や路線延伸などを計画していた。
- ・ 平成20年12月に運賃改正。全路線の運賃見直しに合わせ本路線でも運賃値上げを実施。(100円 150円、路線を延長した区間を含めると220円)。
- ・ 運賃改正に合わせ、路線をおもろまち駅前まで延伸することで利用客にとって利便性は向上した。単なる値上げではなく利便性向上を前面に打ち出すことで、苦情もなく乗降客数も減少することはなかった。

関係者相互の協力による本格運行の実現

- 行政、ホテル等各施設や団地自治会、交通事業者相互の要請・協力により、バス運行に不可欠な転回場所の確保が実現した。

利用客確保のための工夫・ノウハウの実施

- 利用者の属性に合わせた運行時間帯の設定、見直し
- 大型観光ホテルへの乗り入れ（2ヶ所）
- ポスターチラシの作成、自治会を通じた各家庭への配布活動
- モノレール駅と結節しているため、運転手のアナウンスにより、モノレールの出発時刻をお知らせするなどのサービス
- 社会実験期間中はコミュニティバスとモノレールの間で乗継割引を実施

社会実験の効果、結果

- モノレールの駅と地区をつなぐ路線としてバス路線が位置付けられたため、便利な公共交通ネットワークが構築できた。
- 平日は、もともとバス路線のなかった首里金城町、寒川町周辺住民の通勤・通学・買物などの移動手段として、また石嶺団地住民のモノレール駅へのアクセス手段として有効に利用された。休日は観光客の首里城へのアクセスやホテルとの行き来に利用された。
- 住民、観光客の足として機能を果たしており、本格運行後も乗降客数はほぼ横ばいで推移している。

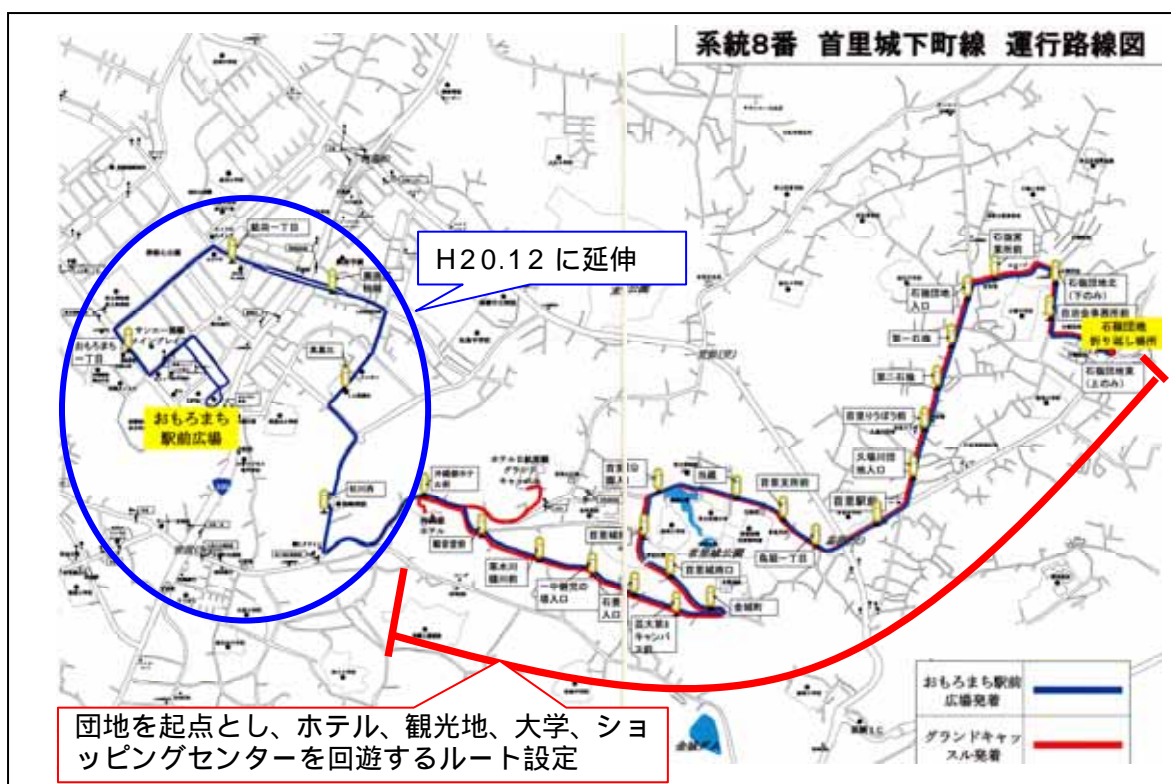


図 3-27 首里城城下町線 路線図

(出典) 沖縄バス(株) 提供資料